ワクワクするために

西大和学園カリフォルニア校

平日校校長小倉佳恵

今年度の一学期には、昼休みを活用して様々な新しい活動が行われました。体を動かす機会を増やそうと、ラジオ体操週間を設けたり、ドッヂボールとリレーを楽しむミニ運動会が開催されたりしました。毎年続いていた中庭でのNACS (児童・生徒会) 主催の全校ランチも、より親密な会合になるように形式を工夫し、二学年ごとに教室に集まって頻繁に行われました。また、幼稚園と小学部を招待して、文化図書委員が絵本「100回生きたねこ」や「一休さん」の読み聞かせを行いました。これらの試みは教師が考えたものではなく、小中の委員会によって練られ、「企画書」として提案されたものです。次から次に企画書が提案され、NACの昼休みは子どもたちがワクワクする時間になっていきました。

私たち大人はややもすると「あれをしなさい」「こうしなさい」と子どもたちに指示を出してしまいます。これから始まる夏休みのように、自由な時間が増える時こそ、子どもたちが自主的に計画を立てて過ごして欲しいものです。この自主性とは、ワクワクする気持ちを育てることでもあり、心理学者が勧める方法として、「何故、それをするのか、理由を考える」「すぐに取り組む」「行動のステップを具体的にする」などがあるそうです。一学期に委員会の子どもたちが書いた「企画書」は、実はこのワクワクする気持ちを育てるツールになっていました。子どもたちはまず「企画名や起案理由」を書き込みます。「七夕気分を味わえるランチパーティーを！」「運動会に向けてチーム力向上」。そして、これらの理由をもとに、「当日までの流れや調べなくてはならないこと」を詳しく記入していきました。

　夏休みには、普段にはなかなかできないことから、いつもと変わらないことまで、様々なこと行って1日を過ごすと思います。自主性を育てるのに大切なことは「何をするか」ではなく、子どもたちに「どうして？」と聞いたり、「何をするのかを詳しく教えて」という声がけをすることではないかと思います。子どもたちがご家庭に戻る一か月を是非楽しんでいただき、ワクワクする気持ちが詰まった夏休みを過ごしていただければと思います。